令和5年度 3学期終業式

皆さん、おはようございます。本日は、終業式ということで、一年間の振り返りと、今の君たちにぜひ伝えたいこと、そして、来年度に向けて、心がけてほしいこと、の3点を伝えます。

あまり長く話すのは嫌いなのですが、今日は話したいことが多く、いつもより少し長くなります。今日だけ許してください。

まず、一年間の振り返りです。

今年度は、ようやくコロナ禍が明け、会話しながら食事をしたり、大きな声で笑ったり、一斉にみんなで行動したり、歌ったり、叫んだり、E-Fes 体育の部や文化の部、各学科の宿泊行事が当たり前にできたこと。そして、みんながそのようなイベントを通して、心から楽しみ、仲間との時間を共有し、その時時に達成感や喜び、あるいは悔しさ、そして幸せを感じたであろうと思っています。

また、創立 100 周年という節目の年であることも、東高校が新しい 100 年を迎えるにあたって、記念すべき素晴らしい一年になったと思います。そういう点で、一人一人が全力で取り組み、皆で協力し合った一年だったと思います。

ぜひ、4月からは、新しい後輩たちを巻き込んで、東高校をさらに元気にしていってほしいと思います。

続いて、今君たちに伝えたいことです。

それは、先日の卒業式で卒業生にも伝えましたが、吉野源三郎さんの小説「君たちはどう生きるか」の中で、主人公の中学生コペル君に向けて、叔父さんが話す、次のセリフです。

ちなみに、この小説を読んだ人はいますか？いたら、手を挙げてくれるかな？

はい、ありがとう。この小説は、知っているとおり、宮崎駿さんの映画にもなっていますが、内容は全く異なります。では、おじさんのセリフです。

「もしも君が、学校でこう教えられ、世間でもそれが立派なこととして通っているからといって、ただそれだけで、言われたとおりに行動し、教えられたとおりに生きてゆこうとするならば、それじゃあ、君はいつまでたっても一人前の人間になれないんだ。子供のうちはそれでいい。肝心なことは、世間の眼よりも何よりも、君自身がまず、人間の立派さがどこにあるか、それを本当に君の魂で知ることだ。そうして、心底から、立派な人間になりたいという気持ちを起こすことだ。いいことと悪いことの判断をしてゆくときにも、また君がいいと判断したことをやってゆくときにも、いつでも、君の胸からわき出て来るいきいきとした感情に貫かれていなくてはいけない。」

そして、「君自身が心から感じたことや、しみじみと心を動かされたことを、くれぐれも大切にしなくてはいけない。それを忘れないようにして、その意味をよく考えてゆくようにしたまえ。」

要は、先生がこう言ったからとか、親に言われたからとか、それだけで正しいと思い込み、その通りに行動するなということです。当然、ご両親や先生はみんなのために、正しいことを教

えようとしますが、「だからそうする」というのではなく、それをみんなが自分自身に落とし込んで、君たち自身の魂で、本気で、そうありたいと思わないといけないということです。でなければ、君たちはいったい誰のために、何のために生きるのか、また、これからの人生、君たちはどのように振る舞い、どう生きるのか。それを一つ一つしっかりと考えることが大事だということです。

少しいらぬ説明をしましたが、まずは、今、君たちが感じたことを大切にしてください。AI が進歩して、今後、さらに世の中には嘘や虚構の世界が増えます。みなさんが、その目ではなく、心で、魂で、真実や善悪を判断してほしいと願っています。

今の話を踏まえて、来年度に向けて、君たちに心がけてほしいことを伝えます。

何より、まずは「正しい身だしなみ」「正しい振る舞い」を心がけることです。

今、君たちが来ているのは「制服」です。制服というのは、フォーマルなものです。家に帰って、君たちが、何を着ようが着まいが、私の知るところではありません。個性的な服や派手な服を着ようが、少々露出の多い服やミニスカートをはこうが、個人の趣味や好き嫌いの範疇なので、自由にすればいい。

でも、「制服」には、「正しい着こなし」というのがあります。ここ約半年の君たちの姿を見ていると、「正しく着こなせる人」が確実に少なくなっている。思うに、君たちの基準は「注意されるか、されないか」「されなければ良い」というレベルの低い基準で行動しているのではないか。そういう点で、さきほど話をした、君たちは「どう振舞うべきか」「どう生きるか」ということをあらためて自分自身に問い直してほしいと思います。

一方で、「服装など関係ない、やることをやればいい」と言う人がいるが、それは違います。なぜかというと、今言ったように、「制服」は正しく着るものであり、それも実は「やるべきこと」だからです。強く言っておくが、自分で自分のレベルを下げてはいけない。評価を下げてはいけない。そこはしっかりと頭に入れておかねばならない。

そういう点で、今、高校生の立派な主張として、東京都にある幼小中高大一貫校「桐朋学園」の卒業生が読んだ答辞が大変注目されています。内容は結構長いので、省略しますが、入学後のコロナ禍において、臆することなく、自分たちが全力で取り組んだことや、母校に対するとんでもなく熱い想いが、ありったけの知性と粋なユーモアで述べられています。

当然、答辞自体に優劣はないし、本校の卒業式での送辞も答辞もとても素晴らしく、感動しましたが、注目されている例として紹介しておきます。何か得るものがあると思うので、ぜひ一度読んでみてください。

以上、３点が伝えたいことですが、卒業生の頑張りについて話します。

この卒業生の進路として、皆が一定の目標としている関関同立の合格者数は、受験する人数、学部の数が減ったことにより全体数は少し減りましたが、一方で国公立大学の受験者が昨年度より増えたため、現時点で合格者は５７名となりました。また、そのうち、大阪大学は、３

名で、浪人していた卒業生も2名合格しました。

数がすべてではないし、本人が行きたいところに行くということが大前提ですが、「数は力である」ことは確かだし、それが「自信」につながります。このあとのHRで、進路指導部作成の「進路ニュース」を配付しますので、ぜひ読んでください。先輩方の生の声、アドバイスがたくさん掲載されています。

私から一つ言うなら、やはり「読書」「長い文章を読むことに慣れる」ということです。「進路ニュース」の卒業生のアドバイスの中に「Twitter と YouTube の削減」というのがありますが、例えば、今1時間をそれに使っていたら、30分にして残りの30分を読書に充ててください。そうすれば、劇的に学力は伸びます。私が保証します。

その他、やはり1年時から目標を高く持って仲間で取り組んできた生徒や、教科書を丁寧に学習した生徒、最後まであきらめずに粘り強く勉強した生徒が目標を達成しています。皆さんも心折れそうになるかもしれませんが、いったん目標を定めたら、ブレずに粘り強く取り組んでほしいと思います。

心が折れにくくなるための参考として、私は、嫌なことやしんどいことが起きたときには、いつもその出来事の前に「積極的」という言葉をつけます。

「今日は雨か…」と思った時は、「今日は、積極的に雨天を楽しむ」と切り替えるとか、駅まで行って定期を忘れた時には、「積極的忘れ物」と名付けて、自宅までの道のりに新しい発見を探すとか、何かミスをして叱られることが分かったときに「積極的謝罪」と名付けて、いかに相手をそれ以上怒らせないように見事に謝罪してみせるとか、失敗した時に「積極的失敗」と名付けて、失敗してよかった、これで大きな失敗をせずに済んだと自分を納得させるとか。

そうすることで、ネガティブな要素を消すことができ、何か楽しいことをしていると、自分で自分を錯覚させています。実際、今はあまりしんどいとか嫌だなと思うことが減りました。ぜひ試してみてください。

長くなりましたが、以上で、私の話を終わります。皆さん、いい春休みを過ごしてください。

校長　寺本　圭一